

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年8月14日
【四半期会計期間】	第132期第1四半期（自平成20年4月1日至平成20年6月30日）
【会社名】	信越化学工業株式会社
【英訳名】	Shin-Etsu Chemical Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金川 千尋
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町二丁目6番1号
【電話番号】	03(3246)5011
【事務連絡者氏名】	総務部長 小池 忠彦
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町二丁目6番1号
【電話番号】	03(3246)5011
【事務連絡者氏名】	総務部長 小池 忠彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第132期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第131期
会計期間	自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日	自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日
売上高(百万円)	340,770	1,376,364
経常利益(百万円)	79,015	300,040
四半期(当期)純利益(百万円)	51,418	183,580
純資産額(百万円)	1,449,485	1,483,669
総資産額(百万円)	1,816,657	1,918,544
1株当たり純資産額(円)	3,268.18	3,344.17
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	119.51	426.63
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	119.48	426.35
自己資本比率(%)	77.4	75.0
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	78,044	202,413
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	49,413	248,626
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	25,310	53,534
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(百万円)	291,828	301,619
従業員数(人)	20,325	20,241

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年6月30日現在

従業員数（人）	20,325 [2,417]
---------	----------------

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。[]内は臨時従業員数の当第1四半期連結会計期間平均人員であり、外書で記載しております。

2. 臨時従業員に派遣社員は含んでおりません。

(2) 提出会社の状況

平成20年6月30日現在

従業員数（人）	2,611
---------	-------

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）
有機・無機化学品	156,768
電子材料	135,847
機能材料その他	18,354
合計	310,969

- (注) 1. 生産金額は期中販売価格により算出したものであります。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社グループ(当社及び連結子会社)は主として見込み生産を行っているため、受注状況を記載しておりません。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）
有機・無機化学品	171,594
電子材料	141,856
機能材料その他	27,319
合計	340,770

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結会計期間のわが国経済は、原油価格の高騰や米国経済減速の影響により企業収益が減少し、個人消費や設備投資が力強さを欠くなど、景気の足踏み状態が続く展開となりました。

このような状況のもとで、当社グループは、世界の幅広い顧客への積極的な販売活動を展開するとともに、生産能力の増強や新規製品の開発・事業化に鋭意取り組み、また、安全管理と環境保全の徹底にも努めてまいりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

[有機・無機化学品事業]

<塩化ビニル樹脂>

米国内での住宅建設の低迷により需要が減少し、米国の同業他社が大幅な減益や赤字となる中、米国シンテック社は、米国内への販売に加え輸出にも注力しフル操業を継続し堅調でした。また、オランダのシンエツPVC社は順調な販売を続けました。

一方、国内事業は、原料価格の高騰の影響を受けたことに加え需要が低迷し低調でした。

<シリコーン>

国内では、汎用品だけでなく、車載・情報機器・化粧品向けなどの特殊品を中心とした拡販に注力し、原料高騰による価格転嫁を進め堅調に推移しました。また、信越ポリマー社の携帯電話用キーパッドは単価下落により低調でした。

<その他>

セルロース誘導体は、国内事業では医薬品向けを中心に順調に推移し、また、ドイツのSEタイロース社も堅調でした。日本酢ビ・ポパール社は順調な出荷を継続したほか、オーストラリアのシムコア社も好調でした。

当事業の売上高は1,715億9千4百万円、営業利益は274億8千9百万円となりました。

[電子材料事業]

<半導体シリコン>

300mmウエハーが順調な出荷を継続しました。

<その他>

電子産業用希土類磁石は、ハードディスク・ドライブの在庫調整の影響を受け、売上は減少しました。フォトレジスト製品は半導体デバイスの微細化に伴い堅調だったほか、電子産業用有機材料も堅調でした。

当事業の売上高は1,418億5千6百万円、営業利益410億9千9百万円となりました。

[機能材料その他事業]

<合成石英>

光ファイバー用プリフォームは、売上が伸長しましたが、液晶用大型フォトマスク基板は、市況が低迷し売上は大きく減少しました。

<一般用希土類磁石、その他機能材料>

一般用希土類磁石では、省エネ・軽量化が要求されるエアコン・自動車・ロボット向けなどの需要が拡大し順調でした。また、液状フッ素エラストマー、ペリクルの出荷も好調でした。

当事業の売上高は273億1千9百万円、営業利益は74億5千9百万円となりました。

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

[日本]

300mmウエハーが順調な出荷を継続し、シリコンやフォトレジスト製品も堅調でした。

売上高は1,689億5千6百万円、営業利益は563億1千5百万円となりました。

[北米]

塩化ビニル樹脂は、米国内への販売に加え輸出にも注力した結果、堅調でした。また300mmウエハーが順調な出荷を継続しました。

売上高は772億2百万円、営業利益は113億3千6百万円となりました。

[アジア・オセアニア]

200mmウエハーは、市場縮小により低調でした。金属珪素は好調でしたが、信越ポリマーグループの携帯電話用キーパッドは単価下落により低調でした。

売上高は526億1百万円、営業利益は35億7千5百万円となりました。

[欧州]

塩化ビニル樹脂が順調な販売を続け、セルロースも堅調でした。

売上高は420億9百万円、営業利益は31億2百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は2,918億2千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ97億9千万円減少しました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間の営業活動の結果得られた資金は780億4千4百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純利益790億1千5百万円、減価償却費283億9千2百万円等により資金が増加した一方、法人税等の支払額374億2千9百万円、仕入債務の減少額136億7千9百万円等により資金が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間の投資活動の結果使用した資金は494億1千3百万円となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出が618億9千7百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入が225億7千9百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間の財務活動の結果使用した資金は253億1千万円となりました。配当金の支払額215億1千2百万円、借入金の返済などによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第127条各号に掲げる事項）は次のとおりであります。

< 1 > 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針（以下、「本基本方針」といいます。）

当社グループは、「有機・無機化学品事業」、「電子材料事業」、「機能材料その他事業」を営んでおりますが、当社及び関係会社が製造・販売等を分担し、相互に協力して、事業活動を展開しております。当社グループの経営には、これらの事業に関する幅広い知識と豊かな経験、並びに、世界各国の顧客、従業員及び取引先などのステークホルダーとの間に築かれた関係についての十分な理解が欠かせません。当社は、当社の企業価値の最大化に資する者が当社の財務及び事業の方針の決定を支配すべきであると考えておりますが、当社株式に対する大規模な買付行為がなされた場合にこれに応じて当社株式の売却を行うか否かの最終的な判断は株主の皆様へ委ねられるべきものであると理解しております。但し、そのためには、当該買付行為に関する十分な情報が、買付行為を行う者及び当社の双方から、株主の皆様へ提供されることが重要であると考えます。

一方、大規模な買付行為の中には、当社企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を著しく損なうと判断されるものもあり得ますことから、このような買付行為に対しては、取締役の善管注意義務に基づき、当社取締役会が適切と考えられる方策をとることも必要であると考えます。

< 2 > 当社グループの企業価値向上に向けた取組みについて

（「当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の本基本方針の実現に資する特別な取組み」）

経営方針

当社グループは、安全をいかなる場合も最優先とし、公正な企業活動を行い、素材と技術を通じて暮らしや産業・社会に貢献することにより企業価値を高め、株主の皆様のご期待にお応えしていくことをめざしております。そのために、世界最高水準の技術や品質の確立とともに生産性の絶え間ない向上に努めながら、世界中の顧客と安定した取引関係を築き、経済情勢や市況の変化に的確に対応できる経営を進めております。

具体的な取組み

塩化ビニル事業では、世界的に需要が伸長していることから、米国シンテック社において、電解から塩化ビニル樹脂までの一貫製造工場を建設いたしました。また、オランダのシンエツPVC社においては、平成18年に完了した生産能力増強に続く投資を検討しておりますが、これらの設備を活用し、世界最大の塩化ビニル樹脂メーカーとしての地位をより強固なものにしてまいります。

シリコン事業では、幅広い需要分野を有する製品特性を活かし、新製品及び新規用途の開発を促進するとともに、日本、タイ、米国などの各工場での能力増強を実行し、日本国内のみならず海外での事業の拡大をめざします。

半導体シリコン事業では、300mmウェハの早期増産とリスク分散のため、国内及び米国の合計5ヶ所の生産拠点で設備増強を行い、平成19年夏、月産100万枚体制を構築いたしました。今後も、需要動向を的確に捉え、設備を増強し、世界最大のメーカーとしての役割を果たしてまいります。また、200mm以下のウェハでは、高品質化や差別化により競争力の強化に注力いたします。

希土類磁石事業では、原料歩留り向上のためレア・アース分離精製設備を新設するほか、能力増強に順次取り組んでまいります。

セルロース事業では、生産拠点の複数化による安定供給を図るため、当社直江津工場に加え、新たにドイツのSEタイロース社での医薬用セルロース製造設備の建設を進めてまいります。

さらに、将来の事業拡大のため、新規製品の研究開発と事業化に注力するとともに、M&Aを含む諸施策を実行してまいります。

一方、安全確保、環境保全、コンプライアンスなどの企業の社会的責任を果たし、引き続き企業価値の最大化に努めてまいります。

以上の取組みは、いずれも当社グループの企業価値を向上させ、その結果、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を著しく損なう当社株式の大規模な買付行為がなされるリスクを低減するものと考えられますことから、本基本方針に沿うものであると考えます。また、これらの取組みは当社グループの企業価値を向上させるものですから、当社の株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また、当社役員の地位の維持を目的とするものではないことは明らかであると考えます。

< 3 > 大規模買付行為への対応方針

（「本基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み」）

当社は、株主の皆様や投資家の皆様に対して積極的なIR活動を進めておりますものの、大規模買付行為（特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為をいい、かかる買付行為を行う者を以下、「大規模買付者」といいます。）の開始時に、大規模買付者が提示する買付対価が適切か否かを株主の皆様が的確にご判断なさるために

は、大規模買付者及び当社の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが不可欠です。そこで、当社は、平成20年6月27日開催の第131回定時株主総会におけるご承認をもって大規模買付行為への対応方針（以下、「本対応方針」といいます。）を導入いたしました。

大規模買付ルールの内容

当社が設定する大規模買付ルールの骨子は、（ ）事前に大規模買付者が当社取締役会に対して必要かつ十分な情報（以下「本必要情報」といいます。）を提供し、（ ）大規模買付行為は、当社取締役会による一定の評価・検討期間の経過後にのみ開始される、というものです。

イ．本必要情報の提供

大規模買付者には、まず、大規模買付行為の開始前に、当社代表取締役宛に、大規模買付者の名称、住所、設立準拠法、代表者の氏名、国内連絡先及び開始する大規模買付行為の内容並びに大規模買付ルールに従う旨の意向を明示した書面を提出いただくこととします。当社は、当該書面の受領後10営業日以内に、大規模買付者に対して、当初提供いただくべき本必要情報のリストを交付いたします。なお、当初提供していただいた情報を詳細に検討したうえで、当該情報だけでは十分ではないと認められる場合には、当社取締役会は、大規模買付者に対して本必要情報が揃うまで追加的な情報提供を要求いたします。

ロ．評価・検討期間の設定

次に、当社取締役会は、大規模買付行為に関する評価・検討の難易度に応じて、大規模買付者が本必要情報の提供を完了した後、60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の買付の場合）又は90日間（その他の大規模買付行為の場合）を取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間（以下「取締役会評価・検討期間」といいます。）として確保されるべきものと考えます。従って、大規模買付行為は、取締役会評価・検討期間の経過後にのみ開始されるものとし、取締役会評価・検討期間中、当社取締役会は独立の外部専門家（証券会社、投資銀行、フィナンシャル・アドバイザー、弁護士、公認会計士、コンサルタント等の専門家）の意見を聴取しつつ、本必要情報を十分に評価・検討し、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、公表します。また、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会として株主の皆様に対し代替案を提示する場合があります。

ハ．独立委員会の設置及びその構成

本対応方針の運用に係る取締役会の恣意的な判断を排除し、判断の公正さを担保するための機関として、独立委員会を設置します。

本対応方針では、後述のイ．及びロ．において、対抗措置発動にかかる客観的な要件を定めておりますが、イ．に記載の対抗措置をとる場合、並びに、ロ．に記載の例外的対応をとる場合など、本対応方針の運用に関する重要な判断にあたっては、原則として独立委員会に諮問することとし、当社取締役会はその勧告を最大限尊重するものとし、

独立委員会の検討は、前述のロ．「評価・検討期間の設定」にて記載した取締役会評価・検討期間に行われるものとし、

独立委員会の委員は3名以上とし、公正で中立的な判断を可能とするため、当社の業務執行取締役から独立している、当社社外取締役及び当社社外監査役、並びに、弁護士、公認会計士、税理士、学識経験者、経営経験豊富な企業経験者など社外有識者の中から選任いたします。なお、第131回定時株主総会終了後の取締役会において、当社社外取締役の河野俊二、金子昌資、宮崎毅の3氏が独立委員会の委員として選任されました。

大規模買付行為が実施された場合の対応

イ．大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守しなかった場合には、当社取締役会は、当社企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を守るため、新株予約権の発行等、会社法その他の法律及び当社定款が認める対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗する場合があります。

ロ．大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、原則として大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。大規模買付者の買付提案に応じるか否かは、株主の皆様において、当該買付提案及び当社が提示する当該買付提案に対する意見、代替案等をご考慮の上、ご判断いただくこととなります。但し、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当該大規模買付行為が当社企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、取締役の善管注意義務に基づき、当社取締役会は当社企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益の保護のために、適切と考える方策をとることがあります。これは、大規模買付行為に対し、当社取締役会として例外的に対応するものであります。

本対応方針の有効期限等

本対応方針の有効期限は、平成21年6月開催予定の当社第132回定時株主総会終了の時までとし、当該時点以降も本対応方針を継続する場合は、当社株主総会において出席株主の議決権の過半数のご賛同を得て承認可決されることを条件といたします。また、本対応方針の有効期限の前であっても、株主の皆様様の共同の利益向上等の観点から当社取締役会により本対応方針を廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されるものとします。

< 4 > 本対応方針が本基本方針に沿うものであり、株主の皆様様の共同の利益を損なうものではないこと、当社従業員の

地位の維持を目的とするものではないこと

本対応方針が本基本方針に沿うものであること

本対応方針は、大規模買付ルールとして、大規模買付者が当社取締役会に対して大規模買付行為に係る必要かつ十分な情報の提供を事前に行うべきこと、及び、当該大規模買付行為は取締役会評価・検討期間の経過後にのみ開始されるべきことを定め、これらを遵守しない大規模買付者に対しては当社取締役会が対抗措置を講ずることがある旨を規定しております。

一方、本対応方針は、大規模買付ルールが遵守されている場合でも、大規模買付行為が当社企業価値ひいては株主の皆様様の共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、当社取締役会は、適切と考える対抗措置を講ずることがある旨を規定しております。

以上のとおり、本対応方針は、本基本方針を実現するためのものであり、本基本方針の内容に沿ったものであります。

本対応方針が株主の皆様様の共同の利益を損なうものではないこと

本対応方針は、大規模買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かの最終的な判断は株主の皆様様に委ねられるべきものであるとの認識を踏まえ、株主の皆様が大規模買付行為に対する応否を適切に決定するために必要かつ十分な情報の提供を受ける機会を確保することを目的としつつ、株主の皆様様の共同の利益を著しく損なうと判断される大規模買付行為に対しては、当社取締役会として適切と考える対抗措置を講ずることがある旨を規定しております。よって、本対応方針は、株主の皆様様の共同の利益の確保・向上を目的とするものであり、決してこれを損なうものではありません。

本対応方針が当社役員の地位の維持を目的とするものではないこと

前述のとおり、本対応方針は株主の皆様様の共同の利益の確保・向上を目的とするものであり、その導入・継続は、当社取締役会の判断のみではできず、株主の皆様様の承認を要することとなっております。

また、本対応方針では、当社取締役会による対抗措置発動に係る要件が客観的に定められ、事前に公表されております。さらに、本対応方針では、当社取締役会による大規模買付行為に関する評価、検討、交渉、意見形成等に際しては、独立の外部専門家（証券会社、投資銀行、フィナンシャル・アドバイザー、弁護士、公認会計士、コンサルタント等の専門家）の意見を聴取することとされており、また、対抗措置の発動に際しては、公正で中立的な判断を可能とするため、当社の業務執行取締役から独立している委員で構成される独立委員会へ諮問し、当社取締役会はその判断を最大限に尊重することとされております。

以上のとおり、本対応方針には当社役員の恣意的な判断を排除するための仕組みが内包されておりますことから、当社役員の地位の維持を目的として対抗措置が発動されることはありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発費は9,267百万円であります。

なお、当第1四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末に計画した重要な設備の新設、改修等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,720,000,000
計	1,720,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成20年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成20年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	432,106,693	432,106,693	(株)東京証券取引所 (株)大阪証券取引所 (株)名古屋証券取引所 各市場第1部	-
計	432,106,693	432,106,693	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき発行した新株予約権

平成16年6月29日開催の当社定時株主総会決議に基づくもの

	第1四半期会計期間末現在 (平成20年6月30日)
新株予約権の数(個)	655(注)
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	65,500
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 3,957
新株予約権の行使期間	自平成16年7月5日 至平成21年3月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の 発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,957 資本組入額 1,979
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、当社の取締役及び従業員の地位のい ずれをも喪失した後も2年間に限り、新株予約権を行 使することができる。 新株予約権者の死亡後2年間に限り、その者の相続人 は新株予約権を行使することができる。 その他の条件は、当社と新株予約権者との間の「新株 予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡、質権等の担保権の設定その他の処分は認めない。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注) 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。

平成17年6月29日開催の当社定時株主総会決議に基づくもの

	第1四半期会計期間末現在 (平成20年6月30日)
新株予約権の数(個)	1,670(注)
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	167,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 4,244
新株予約権の行使期間	自平成17年6月29日 至平成22年3月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 4,244 資本組入額 2,122
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、当社の取締役及び従業員の地位のいずれをも喪失した後も2年間に限り、新株予約権を行使することができる。 新株予約権者の死亡後2年間に限り、その者の相続人は新株予約権を行使することができる。 その他の条件は、当社と新株予約権者との間の「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡、質権等の担保権の設定その他の処分は認めない。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注) 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。

会社法に基づき発行した新株予約権

平成18年6月29日開催の当社定時株主総会決議に基づくもの

	第1四半期会計期間末現在 (平成20年6月30日)
新株予約権の数(個)	5,871 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	587,100
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 6,560
新株予約権の行使期間	自平成18年7月13日 至平成23年3月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 6,560 資本組入額 2
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、当社の取締役及び従業員の地位のいづれをも喪失した後も2年間に限り、新株予約権を行使することができる。 新株予約権者の死亡後2年間に限り、その者の相続人は新株予約権を行使することができる。 その他の条件は、当社と新株予約権者との間の「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡、質権等の担保権の設定その他の処分は認めない。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	3

- (注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。
- 2 資本組入額は、会社計算規則第40条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとします。
- 3 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
 残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
 再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
 組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
 交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案の上調整して得られる再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額とする。

- (5) 新株予約権を行使することができる期間
 上表「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上表「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
 残存新株予約権について定められた当該事項に準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
 譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。
- (8) 新株予約権の取得の条件
 残存新株予約権について定められた条件に準じて決定する。

平成19年6月28日開催の当社定時株主総会決議に基づくもの

	第1四半期会計期間末現在 (平成20年6月30日)
新株予約権の数(個)	9,150 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	915,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 8,949
新株予約権の行使期間	自平成19年7月2日 至平成24年3月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 8,949 資本組入額 2
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、当社の取締役及び従業員の地位のいずれをも喪失した後も2年間に限り、新株予約権を行使することができる。 新株予約権者の死亡後2年間に限り、その者の相続人は新株予約権を行使することができる。 その他の条件は、当社と新株予約権者との間の「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡、質権等の担保権の設定その他の処分は認めない。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	3

- (注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。
- 2 資本組入額は、会社計算規則第40条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとします。
- 3 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
 残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
 再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
 組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
 交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案の上調整して得られる再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間
 上表「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上表「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
 残存新株予約権について定められた当該事項に準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
 譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。
- (8) 新株予約権の取得の条件
 残存新株予約権について定められた条件に準じて決定する。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成20年4月1日 ～平成20年6月30日	-	432,106	-	119,419	-	120,771

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりませ
 ぬ。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成20年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成20年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,865,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 429,900,000	4,299,000	-
単元未満株式	普通株式 340,993	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	432,106,693	-	-
総株主の議決権	-	4,299,000	-

(注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、全て当社保有の自己株式であります。

2. 上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、4,200株(議決権の数42個)含まれております。

【自己株式等】

平成20年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
信越化学工業株式会社	東京都千代田区大手町二丁目6番1号	1,865,700	-	1,865,700	0.43
計	-	1,865,700	-	1,865,700	0.43

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年4月	5月	6月
最高(円)	6,570	6,840	7,000
最低(円)	5,170	6,100	6,360

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第1部)におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を適用しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。なお、新日本有限責任監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成20年7月1日をもって新日本監査法人から名称変更しております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	245,935	217,265
受取手形及び売掛金	302,945	313,943
有価証券	121,720	184,519
たな卸資産	³ 191,453	³ 204,336
その他	71,285	101,986
貸倒引当金	4,341	4,726
流動資産合計	928,998	1,017,325
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	225,327	240,671
その他(純額)	408,362	413,972
有形固定資産合計	¹ 633,689	¹ 654,643
無形固定資産		
のれん	21,218	22,803
その他	3,048	3,055
無形固定資産合計	24,267	25,859
投資その他の資産		
投資その他の資産	229,720	220,736
貸倒引当金	18	19
投資その他の資産合計	229,701	220,716
固定資産合計	887,658	901,219
資産合計	1,816,657	1,918,544
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	134,718	149,304
短期借入金	8,490	11,826
未払法人税等	22,467	39,463
引当金	1,834	3,694
その他	146,450	172,359
流動負債合計	313,960	376,648
固定負債		
長期借入金	19,328	22,132
引当金	11,190	13,784
その他	22,692	22,309
固定負債合計	53,211	58,226
負債合計	367,171	434,875

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	119,419	119,419
資本剰余金	128,177	128,177
利益剰余金	1,194,353	1,163,680
自己株式	12,094	12,217
株主資本合計	1,429,856	1,399,059
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,103	10,695
繰延ヘッジ損益	1,178	3,231
為替換算調整勘定	37,972	25,809
評価・換算差額等合計	23,690	39,737
新株予約権	1,614	1,614
少数株主持分	41,705	43,257
純資産合計	1,449,485	1,483,669
負債純資産合計	1,816,657	1,918,544

(2) 【四半期連結損益計算書】
 【第 1 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成20年 6 月30日)
売上高	340,770
売上原価	235,166
売上総利益	105,604
販売費及び一般管理費	29,795
営業利益	75,808
営業外収益	
受取利息	1,752
持分法による投資利益	2,581
その他	1,892
営業外収益合計	6,226
営業外費用	
デリバティブ評価損	715
その他	2,304
営業外費用合計	3,019
経常利益	79,015
税金等調整前四半期純利益	79,015
法人税、住民税及び事業税	20,313
法人税等調整額	6,745
法人税等合計	27,059
少数株主利益	537
四半期純利益	51,418

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	79,015
減価償却費	28,392
受取利息及び受取配当金	2,336
為替差損益(は益)	1,631
持分法による投資損益(は益)	2,581
売上債権の増減額(は増加)	4,997
たな卸資産の増減額(は増加)	8,205
仕入債務の増減額(は減少)	13,679
その他	19,188
小計	112,839
利息及び配当金の受取額	3,027
利息の支払額	392
法人税等の支払額	37,429
営業活動によるキャッシュ・フロー	78,044
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の純増減額(は増加)	3
有形固定資産の取得による支出	61,897
投資有価証券の取得による支出	6,682
投資有価証券の売却及び償還による収入	22,579
貸付金の純増減額(は増加)	3,281
その他	135
投資活動によるキャッシュ・フロー	49,413
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(は減少)	2,354
長期借入金の返済による支出	1,220
自己株式の取得及び処分による純増減額(は増加)	77
配当金の支払額	21,512
少数株主への配当金の支払額	299
その他	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	25,310
現金及び現金同等物に係る換算差額	13,111
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	9,790
現金及び現金同等物の期首残高	301,619
現金及び現金同等物の四半期末残高	291,828

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1)重要な資産の評価基準及び評価方法の変更</p> <p>たな卸資産 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。</p> <p>これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ519百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>(2)連結財務諸表における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い</p> <p>当第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。</p> <p>これにより、営業利益は210百万円増加し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ299百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>

【簡便な会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
1. 固定資産の減価償却費の算定方法	<p>年間減価償却費予算を基に、当四半期中に取得、売却又は除却等を行った重要な固定資産の減価償却費を実績に基づき調整し、当第1四半期の減価償却費を算定しております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結会計期間
(自平成20年4月1日
至平成20年6月30日)

有形固定資産の耐用年数の変更

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、有形固定資産(但し、半導体シリコン製造設備を除く)の耐用年数の見直しを行った結果、当第1四半期連結会計期間より改正後の法人税法に基づく耐用年数に変更いたしました。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
1.有形固定資産の減価償却累計額 1,226,373百万円	1.有形固定資産の減価償却累計額 1,243,922百万円
2.連結会社以外の会社等の金融機関借入金等に対し、次のとおり債務保証を行っております。 従業員(住宅資金ほか) 87百万円	2.連結会社以外の会社等の金融機関借入金等に対し、次のとおり債務保証を行っております。 従業員(住宅資金ほか) 90百万円
連結子会社が発行する社債の債務履行引受契約に係る偶発債務は次のとおりであります。 無担保社債 5,000百万円	連結子会社が発行する社債の債務履行引受契約に係る偶発債務は次のとおりであります。 無担保社債 5,000百万円
3.たな卸資産の内訳は次のとおりであります。 商品及び製品(半製品を含む) 106,862百万円 仕掛品 12,719 原材料及び貯蔵品 71,872	3.たな卸資産の内訳は次のとおりであります。 商品及び製品(半製品を含む) 111,520百万円 仕掛品 19,587 原材料及び貯蔵品 73,228

(四半期連結損益計算書関係)

当第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
販売費及び一般管理費のうち主なものは、次のとおりであります。
発送費 8,004百万円
給料手当 5,296
貸倒引当金繰入額 224

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年6月30日現在) (百万円)
現金及び預金勘定 245,935
有価証券勘定 121,720
預入期間がおおむね3カ月を超える定期預金 42,184
株式及び満期日または償還日までの期間がおおむね3カ月を超えるコマーシャルペーパー、債券等 33,643
現金及び現金同等物 291,828

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成20年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数
 普通株式 432,106,693株
2. 自己株式の種類及び株式数
 普通株式 1,846,930株
3. 新株予約権等に関する事項
 ストック・オプションとしての新株予約権
 新株予約権の四半期連結会計期間末残高 1,614百万円(親会社 1,393百万円、連結子会社 221百万円)
4. 配当に関する事項
 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	21,512	50	平成20年3月31日	平成20年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

	有機・無機 化学品事業 (百万円)	電子材料 事業 (百万円)	機能材料 その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	171,594	141,856	27,319	340,770	-	340,770
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,746	1,013	36,666	41,427	(41,427)	-
計	175,340	142,870	63,986	382,197	(41,427)	340,770
営業利益	27,489	41,099	7,459	76,048	(239)	75,808

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分の方法は、製品の種類・販売市場等を考慮し、「有機・無機化学品事業」、「電子材料事業」、「機能材料その他事業」の3事業に区分しております。

2. 各事業区分に属する主要製品及び商品

事業区分	主要製品及び商品名
有機・無機化学品	塩化ビニル樹脂、シリコン、メタノール、クロロメタン、セルロース誘導体、 か性ソーダ、金属珪素、ポパール
電子材料	半導体シリコン、電子産業用有機材料、電子産業用希土類磁石、フォトレジスト製品
機能材料その他	合成石英製品、レア・アース、一般用希土類磁石、液状フッ素エラストマー、 ペリクル、技術・プラント輸出、商品の輸出入、建設・修繕、情報処理ほかサービス

3. 会計処理の方法の変更

(1) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しております。これにより当第1四半期連結累計期間の「有機・無機化学品事業」、「電子材料事業」、「機能材料その他事業」の営業利益はそれぞれ481百万円、34百万円、4百万円減少しております。

(2) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しております。これにより当第1四半期連結累計期間の「有機・無機化学品事業」の営業利益は227百万円増加し、「電子材料事業」の営業利益は17百万円減少しております。

【所在地別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年6月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	168,956	77,202	52,601	42,009	340,770	-	340,770
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	59,959	15,038	14,652	342	89,993	(89,993)	-
計	228,915	92,241	67,254	42,352	430,763	(89,993)	340,770
営業利益	56,315	11,336	3,575	3,102	74,329	1,478	75,808

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

北米：米国

アジア・オセアニア：マレーシア、シンガポール、大韓民国、台湾、タイ、中国、オーストラリア

欧州：英国、オランダ、ドイツ

3. 会計処理の方法の変更

(1) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）を適用しております。これにより当第1四半期連結累計期間の「日本」の営業利益は519百万円減少しております。

(2) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用しております。これにより当第1四半期連結累計期間の「アジア・オセアニア」の営業利益は13百万円減少し、「欧州」の営業利益は223百万円増加しております。

【海外売上高】

当第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年6月30日）

	北米	アジア・ オセアニア	欧州	その他の地域	計
・ 海外売上高（百万円）	63,605	84,987	40,619	23,675	212,887
・ 連結売上高（百万円）					340,770
・ 連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	18.7	25.0	11.9	6.9	62.5

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 各区分に属する主な国又は地域

北米：米国、カナダ

アジア・オセアニア：中国、台湾、大韓民国、シンガポール、タイ、マレーシア

欧州：ドイツ、フランス、ポルトガル

その他の地域：中南米、中東

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(1 株当たり情報)

1 . 1 株当たり純資産額

当第 1 四半期連結会計期間末 (平成20年 6 月30日)	前連結会計年度末 (平成20年 3 月31日)
1 株当たり純資産額 3,268.18円	1 株当たり純資産額 3,344.17円

2 . 1 株当たり四半期純利益金額等

当第 1 四半期連結累計期間 (自平成20年 4 月 1 日 至平成20年 6 月30日)	
1 株当たり四半期純利益金額	119.51円
潜在株式調整後 1 株当たり四半期 純利益金額	119.48円

(注) 1 株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおり
 であります。

	当第 1 四半期連結累計期間 (自平成20年 4 月 1 日 至平成20年 6 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	
四半期純利益 (百万円)	51,418
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-
普通株式に係る四半期純利益 (百万円)	51,418
期中平均株式数 (千株)	430,256
潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額	
四半期純利益調整額 (百万円)	0
(うち子会社新株予約権調整額) (百万円)	(0)
普通株式増加数 (千株)	80
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要	平成18年 6 月29日定時株主総会 決議ストック・オプション (新株予約権方式) 新株予約権の数 5,871個

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年8月11日

信越化学工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	轟 茂道
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	斉藤 浩史
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	向出 勇治
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	市川 亮悟

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている信越化学工業株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、信越化学工業株式会社及び連結子会社の平成20年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。